「例年通り」からの脱却！
～楽しく、無理なく、ためになるＰＴＡ活動を目指して～

愛知県阿久比町立阿久比中学校ＰＴＡ
会　長　　**山　内　泰　樹**

1　はじめに

阿久比町は知多半島の真ん中にある、人口約２万8000人の町です。

町内は緑豊かな田園風景が広がっており、古くから「阿久比米」の産地として有名です。特に、秋に種をまいたレンゲを春にすきこんで化学肥料や農薬の使用を抑えた特別栽培米「れんげちゃん」は、安全・安心な農作物として消費者から高い評価を受けています。また、「ごんぎつね」の舞台となった権現山や矢勝川沿いの彼岸花など、豊かな自然が残されています。町をあげてホタルの保護活動にも力を入れています。

一方で、名古屋市や西三河、セントレアへのアクセスもよいため、ベッドタウンとして子育て世代が多く住んでいます。

阿久比中学校は、創立78年目を迎える、町にたった１つの中学校です。つまり、学区は町内全域であり、町に４つあるすべての小学校から生徒が集まります。宅地造成の影響で近年生徒数が増え続けており、現在、全校生徒数1,070人のマンモス校です。教室が足りなくなったため、一昨年には新校舎を増築しました。

校訓は「自主・勤労愛好・時間尊重」です。ＴＰＯや気候に合わせて制服かジャージを選ぶ「制服選択制」や、自ら時間を見て行動する力を身に付けるための「ノーチャイム制」などを通して、生徒の自主性を伸ばそうとしています。また、学校内外でのボランティア活動への積極的な参加を通して、勤労愛好の精神を育てるとともに、生徒の自己有用感や地域の一員としての意識を高めることを目指しています。

【校舎風景】

2　阿久比中学校のＰＴＡ改革について

⑴　改革の経緯

令和４年度までの組織は、町内の23か所の自治区ごとに、選挙や話し合いで世帯数によって決められた割り当て人数に応じて役員・理事を選出する方式で決定していました。ところが、生徒数の増加に伴い、理事の人数も50名を超え、組織が大きすぎて機能しづらくなっていました。それに加え、地区による世帯数の格差も問題となっていました。

また、活動内容の見直しも課題となっていました。コロナ前は６つの委員会に分かれ、例年通りの決められた活動を、決められた方法で行っていました。しかし、１年ごとに委員は入れ替わるため、コロナの影響で数年間行えなかった活動は引き継いでいくことができなくなりました。さらに、役員・理事を引き受けるうえで年間８回の会議は負担に感じる保護者もいることが分かってきました。

これらのことから、活動のスリム化を

図り、誰もが参加しやすいＰＴＡ活動への改革を行うこととなりました。

⑵　改革後の姿

令和５年度から本格的な改革を行いました。まず、役員・委員の選出は子ども会などの地域の役割との関わりもあるため、会長をはじめとする役員７人の選出については令和７年度までは従来通りとしました。全地区から選出していた理事については委員と名前を改め、人数の枠を設けない立候補制としました。

また、６つあった委員会を廃止し、年度ごとに活動内容を集まった役員・委員で話し合って企画・運営していくこととしました。これまで委員会の活動としていた町や外部組織からの動員要請や、学校が保護者の手を借りたい行事などについては、「ちょこっとボランティア（通称：ちょこボラ）」を募集して対応することにしました。

以下は令和５年度・６年度に取り組んだ活動の一部です。

３　活動の様子

⑴　不登校生徒・保護者の支援

不登校生徒の増加は、阿久比中学校でも課題となっています。不登校生徒同士、また、その保護者同士の交流の場を作りたいという思いから、保護者目線での不登校支援に取り組んでいくことにしました。

不登校生徒の一部は、校内の適応指導教室や、町の教育相談センターに通っています。イラストを描くことが好きな生徒が多いということから、絵を通した交流として「推し本」づくりに取り組むことにしました。

不登校であるかどうかに関わらず、生徒たちから自分の「推し」を描いたイラストを集めました。集まったイラストをカラーコピーして「推し本」にまとめ、学校の職員室前と教育相談センターに置いて、生徒たちが自由に閲覧したり、メモで作者にコメントを送ったりすることができるようにしました。

また、不登校の経験のある漫画家の棚園正一氏を講師として、講演会とイラスト教室を行いました。阿久比町小中学校ＰＴＡ連絡協議会との共同開催という形をとり、不登校かどうかに関わらず小中学生とその保護者、教員が参加して講演を聞けるようにしました。

当日は50名を超える参加がありました。前半の講演会では、棚園氏が不登校だった頃の気持ちや保護者の様子、漫画家を志すきっかけになったできごとなどのお話を伺いました。後半のイラスト教室では、人間の顔や体のイラストをバランスよく描く方法について教えていただきました。Gペンやスクリーントーンなど、本物のイラスト制作に使う道具を使って、親子で楽しむことができました。

また、別室に保護者が自由に語り合えるサロンも準備しました。不登校の子をもつ保護者同士で日頃の過ごし方や、今後の進路のことなど、共通の悩みについて語り合いながら、ほっと一息つくことのできる場となりました。

【棚園氏講演会の様子】

以下は事後アンケートからの抜粋です。

・話を聞いていて、共感する部分が多くありました。言語化するのが難しかっ

たことを代弁してもらえているようでうれしかったです。（生徒）

・学校じゃなくても学べたり、人と関わったり、興味のあることを突き詰めたり、子どもたちが自分らしく自分で選んで生活できる環境が整っていくといいなぁと思いました。（保護者）

・不登校に悩んでいる方だけでなく、今は不登校ではなくても、将来自分たちがいろんな場面に遭遇した時に、考え方の幅を広げることができるために、とても参考になりました。（保護者）

⑵　進路学習会「先輩の話を聞く会」

「進路」は中学生やその保護者にとっての代表的な悩みでもあります。そこで、卒業生から直接話を聞くことのできる「先輩の話を聞く会」を開き、学校説明会では得られないような情報を得る機会を設けました。

令和５年度は事前アンケートをもとに、生徒たちの興味のある高校を９校に絞りこみました。進路指導の先生や教務主任の先生を通じて、本校を卒業したばかりの高校１年生計16名を講師として招いて、夏休みに会を開きました。参加する中学生は二つの高校を選択して聞くことができるようにしました。当日は約100名の中学生が参加し、先輩から授業の様子や校則、部活動など高校生活の話や受験生だった頃のエピソードを聞いたり、疑問に思っていることを質問したりしていました。

以下は参加生徒の感想です。

・受験ということに実感がないのですが、今後未来のためにどう生活していこうかなと考えるよい機会となりました。（１年生）

・私はどの高校に行くか迷っていましたが、この会を通して行きたいと思う高校がたくさん見つかりました。（２年生）

・受験でのヒントや生活の仕方、オススメ勉強法などすごく参考になりました。先輩方の苦労などを参考に自分なりの勉強法を考えます。（３年生）

【「先輩の話を聞く会」の様子】

令和６年度も、同様の方法で実施しました。保護者もぜひ話を聞いてみたいという声が多かったため、保護者も自由に参観できるようにしたところ、当日は多くの保護者に来ていただくことができました。親子で進路の話をするきっかけづくりになりました。

⑶　性教育セミナー

令和６年度の活動についての保護者アンケートで「学校では教えてくれない性教育の話を聞きたい」との声がありました。委員の間での話し合いでも、「思春期を迎え、家庭で性のことをどう話したらよいか分からない」「ＳＮＳなどからの誤った性の知識の影響が心配」などの意見が出されました。保護者として子どもたちに正しい性の知識を身に付けてほしい、自他の心や体を大切にする気持ちを育てたいとの思いから、性教育についての生徒向けセミナーを行うことにしました。

講師として藤田医科大学名誉教授の久納智子氏をお招きし、「久納先生に聞いてみよう！カラダ・性・こころ」というテーマで講演をしていただきました。

事前に保護者から面と向かって我が子に伝えたいけれど伝えにくいという内容

についてアンケートをとり、講師の先生にはその内容を盛り込みながら講演をしていただくようにしました。また、生徒たちの参加は希望制として、すべての学年から参加希望をとることにしました。

当日は20名の生徒が参加しました。「中学生のお付き合いとして、どこまでならＯＫか」という話題では、「一緒に帰るくらいなら…」「体にさわるのはダメじゃない？」などと、互いに意見を出し合いながら、人それぞれ許せるラインが違うということに気付くことができました。また、講師の先生からは、正しい情報を知ることのできるサイトを紹介していただくこともできました。

事前アンケートで寄せられた保護者からの質問について講師の先生に答えていただいた内容と、生徒からの事後アンケートのまとめについては、全世帯に配付し、保護者にも内容を還元していくことができました。

⑷　その他の活動

改革前から引き続き取り組んできたバザーにおいても、新しい試みに取り組んでみました。制服や日用品のリサイクルだけでなく、地域の方を招いて手作り品を販売するマルシェも同時開催する形にしました。収益金は部活動の支援だけでなく、令和５年度は「学校の安全・安心のために」という保護者の思いから、昇降口の防犯カメラの設置を行いました。６年度は防災用品の購入を考えています。

「ちょこボラ」としての活動にも、多くの保護者に参加していただいています。町のあいさつ運動や街頭指導のボランティアだけでなく、バザーや進路学習会、除草作業などのＰＴＡ主催行事の手伝い、さらには卒業式・入学式の駐車場整理など、さまざまな場面で協力していただきました。

４　成果と今後の課題

組織の見直しを行い、従来の活動を一回リセットすることによって、新たなＰＴＡ活動の在り方について考えることができました。

まず、役員・委員の意見だけでなく、保護者全体からのアンケート結果をもとにして「例年通り」に捉われない活動を自由に企画することができるようになりました。そのことで何より、役員・委員が「どうせやるなら、楽しくやろう！」という前向きな気持ちで活動に参加できるようになったと思います。ちょこボラも含め、ＰＴＡ行事に参加してくださる保護者の方々からも「楽しかったのでまた参加します」という声が聞かれ、企画する側もうれしく感じています。参加者同士の新しいつながりも生まれました。

また、全員集まって行う会議の回数を年８回から６回に減らすことができました。それぞれのイベントについては、必要な人・集まれる人だけで必要な時に連絡を取り合って集まったり、メール等でやりとりをしたりして作業を進めることができています。

さらに、保護者としての思いを大切にした活動をすることができるようになったと思います。生徒のため、学校のため、保護者のために必要なことが何かを、その年ごとに考えて企画することでより有意義な活動としていくことができました。

今後、令和８年度からは役員についても立候補制としていく予定です。本当に役員・委員が集まるのか不安ではありますが、現在の「楽しく、無理なく、ためになる」活動を模索し続けていくことによって、保護者の意識が少しずつ変わり、より協力的な体制づくりが進むのではないかとも考えます。今後も持続可能なＰＴＡ活動を目指して取り組んでいきたいと思います。